

# 技術資料

Technical Data

シロアリ防除剤  
土壌処理剤

envu<sup>™</sup>

エンバイロサイエンスジャパン株式会社  
〒100-0004  
東京都千代田区大手町 1-6-1  
www.jp.envu.com



お問い合わせ先

envu<sup>™</sup>

シロアリ防除用 土壌処理剤



## フィプロニルが マイクロカプセルに!

ドミノ効果と高い安全性でより安心な製剤を実現した、シロアリ防除剤の真打ち「アジェンダMC」。ここから、理想のシロアリ防除がはじまります。

### INDEX

I. アジェンダMCの概要	02
II. アジェンダMCの安全性	04
III. アジェンダMCの生物効果	05
IV. アジェンダMCの気中濃度	08
V. アジェンダMCの家屋周辺植物への影響	09
VI. アジェンダMCの土壌移行性と耐アルカリ性	10
VII. アジェンダMCに関するQ&A	11
VIII. アジェンダMCの取扱上の注意事項	15

# I

## アジェンダMCの概要

### 1 製品の概要、成分及び性状

#### (1)アジェンダMCの概要

- 商品名：アジェンダ®MC ®は登録商標 第4826469号
- 有効成分量：フィプロニル2%
- 希釈倍率：100倍
- 用途：シロアリ防除用 土壌処理剤
- 認定：(公社)日本しろあり対策協会 登録番号 第3509号  
(公社)日本木材保存協会 認定番号 A-4239  
(公財)文化財虫菌害研究所 文化財虫菌害防除薬剤 登録番号 第34号

#### (2)有効成分の性状

- 一般名：フィプロニル
- 化学名：5-アミノ-1-(2,6-ジクロロ-4-トリフルオロメチルフェニル)-3-シアノ-4-トリフルオロメチルスルフィニルピラゾール
- 分子式：C<sub>12</sub>H<sub>4</sub>Cl<sub>2</sub>F<sub>3</sub>N<sub>4</sub>OS
- 分子量：437.14
- 外観：類白色～黄色結晶性粉末
- 融点：200～201℃
- 溶解度：水2.4mg/L、ヘキサン0.03g/L、ジクロロメタン22.3g/L、メタノール137.5g/L、トルエン3.0g/L
- 分配係数：Log Pow:4.00(20℃)、n-オクタノール/水
- 蒸気圧：3.7×10<sup>-6</sup>hPa

#### (3)製剤の性状

- 剤型：フィプロニルを2%含むマイクロカプセル製剤
- 外観：類白色の粘稠懸濁液体
- 臭気：微臭性
- pH：5～8
- 保存安定性：40℃、6ヶ月後で外観・有効成分含量に実質上変化なし(室温3年に相当)。なお、-5℃以下で凍結することがあるが、室温下で自然解凍し、性状に変化なし。
- 引火点：>80℃(タグ密閉式)
- 毒劇物区分：普通物\*(フィプロニルを5%以下含むマイクロカプセル製剤は普通物)
- 危険物表示：該当しない(非危険物)
- 包装形態：1L入りプラボトル 1ケース6本入り

\*普通物とは、「毒物および劇物取締法」にもとづく毒物・劇物に該当しないものを指している通称です。

## 2 用法・用量

## 希釈倍率

本剤はよく振り混ぜてから、下記の希釈表に従い、水で所定の倍率に希釈し、散布してください。  
希釈液は使用の都度、十分攪拌し、その日のうちに使用してください。

## 使用方法

## ■用法・用量

本剤はよく振り混ぜてから、下記の希釈表に従い、水で所定の倍率に希釈し、散布してください。希釈液は使用の都度、十分攪拌し、その日のうちに使用してください。(公社)日本しろあり対策協会編・防除施工標準仕様書に従って使用してください。

## ・床下がコンクリート打設面の場合

	散布量 (L/m <sup>2</sup> )	希釈倍率	説明
面状散布	1L	33	アジェンダMC1Lを水32Lに希釈する
	3L	100	アジェンダMC1Lを水99Lに希釈する
帯状散布	1.7L	33	アジェンダMC1Lを水32Lに希釈する
	5L	100	アジェンダMC1Lを水99Lに希釈する

## ・土壌処理の場合

	散布量 (L/m <sup>2</sup> )	希釈倍率	説明
面状散布	3L	100	アジェンダMC1Lを水99Lに希釈する
帯状散布	5L		

よく振ってからお使いください。

## 3 アジェンダMCの特長

- 忌避性がないため、予防及び駆除施工にも優れています。
- 遅効性であり、シロアリへの効果が非常に高いので、優れたドミノ効果が期待できます。
- 毒物劇物取締法の適用を受けない普通物製剤であり、また消防法上の危険物にも該当しません。
- 耐アルカリ性に優れています。
- 長期残効性にも優れています。
- 散布中および散布後の気中濃度は極めて低く、散布作業者及び居住者に対する安全性に優れています。
- 極めて臭いが少ない製剤です。
- 厚労省で定められているVOC13物質を使用していません。

## 1 急性毒性

急性経口毒性 ラット ♂ ♀ LD<sub>50</sub>: >5,000mg/kg

急性経皮毒性 ラット ♂ ♀ LD<sub>50</sub>: >2,000mg/kg

急性吸入毒性: アジェンダMCの平均粒子径(約20μm)は、吸入毒性試験を行うに意味がある粒子径(1μm前後:肺の深部に到達可能な粒子径)を大幅に上回ります。これは、吸入による取り込みが事実上極めて少ないことを示唆しています。

## 2 刺激性

眼一次刺激性(ウサギ) : 極く軽度の刺激性あり

皮膚一次刺激性(ウサギ): 刺激性なし

## 3 皮膚感作性

モルモットに対し皮膚感作性なし

## 4 水生生物に対する影響

コイ(半数致死濃度): LC<sub>50</sub>(96時間): 750mg/L

オオミジンコ(半数遊泳阻害濃度): EC<sub>50</sub>(48時間): 34μg/L

## 1 アジェンダMCの公的試験

アジェンダMCは以下に示す通りに公的試験を行っており、  
全ての試験(実使用濃度0.02%)において、性能基準を満たす結果となっています。

## 室内防蟻効力試験①

試験機関：近畿大学農学部

試験方法：土壌貫通試験(JWPS-TS-S土壌処理用防蟻剤等の防蟻効力試験方法および性能基準に準拠)

供試薬剤：アジェンダMC(フィプロニル2%)

供試濃度：フィプロニル濃度として0.02%

供試虫：イエシロアリ

耐候操作：あり

試験結果：下表の通り

処理区番号	穿孔距離(mm)	穿孔度	死虫率(%)	備考
処理土壌区1	12	2	100%	2日以内に全頭死亡
処理土壌区2	13	2	100%	
処理土壌区3	17	2	100%	
処理土壌区4	18	2	100%	
処理土壌区5	19	2	100%	
無処理土壌区1	50	5	—	1日以内に貫通
無処理土壌区2	50	5	—	
無処理土壌区3	50	5	—	
無処理土壌区4	50	5	—	
無処理土壌区5	50	5	—	

## 室内防蟻効力試験②

試験機関：東京農業大学 林産化学研究室

試験方法：土壌貫通試験(JWPS-TS-S土壌処理用防蟻剤等の防蟻効力試験方法および性能基準に準拠)

供試薬剤：アジェンダMC(フィプロニル2%)

供試濃度：フィプロニル濃度として0.02%

供試虫：イエシロアリ

試験結果：下表の通り

処理区番号	穿孔距離(mm)	穿孔度(平均値)	死虫率(%)	備考
処理区1	9	1	100%	処理区は何れも 6日間以内に全頭死亡した。
処理区2	9	1	100%	
処理区3	9	1(1.4)	100%	
処理区4	17	2	100%	
処理区5	19	2	100%	
無処理区1	50	5	—	無処理区は何れも 24時間以内に貫通した。
無処理区2	50	5	—	
無処理区3	50	5(5.0)	—	
無処理区4	50	5	—	
無処理区5	50	5	—	

## 野外防蟻効力試験③

試験機関：近畿大学農学部 鹿児島県日置市吹上浜シロアリ試験地

試験方法：JWPS-TS-S土壌処理用防蟻剤等の防蟻効力試験方法および性能基準に準拠

供試薬剤：アジェンダMC(フィプロニル2%)

供試濃度：フィプロニル濃度として0.02%

供試虫：イエシロアリ

試験結果：下表の通り

処理区番号	木材片の食害の有無			備考
	1年目	2年目	5年目	
1	なし	なし	なし	試験期間内の処理区の木材片 には、食害は発生しなかった。 無処理区の木材片は、 全て1年目から激しく食害された。
2	なし	なし	なし	
3	なし	なし	なし	
4	なし	なし	なし	
5	なし	なし	なし	

## 2 フィプロニル原体及びアジェンダMCの生物効果

## (1) フィプロニル原体の基礎活性

試験方法：局所施用法(0.2μL/1頭)

供試薬剤：フィプロニル

供試虫：イエシロアリ職蟻

試験結果：下表の通り、フィプロニルはイエシロアリに対して非常に高い基礎活性を示すと判断されました。

供試化合物	LD <sub>50</sub> (ng/頭)	
	3日後	10日後
フィプロニル	0.44	≒0.16

住友化学(株)実施

## (2) アジェンダMCの生物効果

試験方法：直接噴霧法(薬液6mL噴霧)

供試薬剤：アジェンダMC100倍及び200倍希釈液

供試虫：イエシロアリ職蟻

試験結果：下表の通り、アジェンダMCは100倍及び200倍希釈液において、薬剤処理60分後では何れの濃度でもノックダウン効果を示さなかったが、1日後には共に100%の苦悶・死虫率を示しました。薬剤処理後60分目に速効性を示さなかったのは、遅効性であるアジェンダMCの特長であり、これにより高いミノ効果が期待できます。

供試薬剤	希釈倍率(濃度)	60分後の ノックダウン率(%)	1日後の苦悶・死虫率 (%)
アジェンダMC	100倍(0.02%)	0	100
	200倍(0.01%)	0	100

住友化学(株)実施

## (3) アジェンダMCの土壌中残効性

試験方法：土壌混和法(薬液10mL/土壌200g、40°C暗条件保存)による土壌接触試験

供試薬剤：アジェンダMC100倍希釈液

供試虫：イエシロアリ職蟻

試験結果：下表の通り、アジェンダMCの100倍希釈液処理土壌は、40°Cの過酷条件下に6ヶ月保存しても100%の死虫率を発現したことから、高い土壌中残効性があることが示唆されました。

供試薬剤	希釈倍率(濃度)	7日後の死虫率(%)			
		初期	1ヵ月後	3ヵ月後	6ヵ月後
アジェンダMC	100倍(0.02%)	100	100	100	100

住友化学(株)実施

## 1 家屋内における気中濃度(高濃度少量散布)

実施場所：千葉県柏市の木造2階建て住宅

薬剤散布方法：アジェンダMCの33倍希釈液約100L(フィプロニル0.06%)を散布し、散布中、散布後における、台所及び居間床上でのフィプロニルの気中濃度を測定しました。

試験結果と考察：高濃度少量散布においても、散布中～1時間内を除きそれ以降フィプロニルは検出限界未満でした。アジェンダMCの平均粒子径(約20μm)は、吸入毒性試験を行うに意味がある粒子径(1μm前後：肺の深部に到達可能な粒子径)を大幅に上回ります。これは、吸入による取り込みが事実上極めて少ないことを示唆しています。

単位 mg/m<sup>3</sup>  
検出限界 0.000005 mg/m<sup>3</sup>

	記号	散布前	散布中	30分	3時間	1日	3日	7日
天気	-	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	雨	晴れ	曇・小雨
風向き	-	北風	北風	北風	北風	ほぼ無風	ほぼ無風	ほぼ無風
温湿度	外		23.1°C、48%	21.9°C、47%	20.5°C、48%	16.7°C、68%	19.5°C、58%	20.4°C、78%
	中		23.4°C、57%	23.3°C、44%	23.0°C、44%	19.9°C、59%	18.1°C、69%	20.1°C、71%
サンプリング時間	-	10:56~11:10	14:00~14:55	15:05~16:00	16:40~17:40	10:30~11:23	10:31~11:23	13:57~14:50
居間点検口0cm	S00	検出せず	0.000117	0.000005	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず
居間点検口1.2m	S12	検出せず	0.000553	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず
居間1.2m	I	検出せず	0.00163	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず
外換気口	外	検出せず	0.00250	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず

## 2 家屋内における気中濃度

実施場所：兵庫県川西市の木造2階建て住宅

薬剤散布方法：グレネードMCの100倍水希釈液(フィプロニル0.02%/プラレトリン0.01%)約100Lを、ピストルノズルを用いて散布圧約18kg/cm<sup>2</sup>にて散布し、散布中、散布後における、台所及び和室床上でのフィプロニルの気中濃度を測定しました。フィプロニルの検出限界は0.02μg/m<sup>3</sup>としました。

試験結果と考察：下表の通り、散布中の台所以外でのフィプロニル濃度は全ての測定時間において検出限界未満でした。これは、アジェンダMC施工における、作業員及び施主への安全性が非常に高いことを示唆しています。なお、散布中の台所で検出されたフィプロニルは、進入口である床下収納庫が開放状態であったためであると考えられます。

測定時間	気中濃度(μg/m <sup>3</sup> )	
	台所	和室
散布中	0.23	<0.02
散布後1時間目	<0.02	<0.02
散布後3時間目	<0.02	<0.02
散布後3日目	<0.02	<0.02
散布後7日目	<0.02	<0.02

住友化学(株)実施

## 家屋周辺植物への影響

実施場所：茨城県結城市 自社研究所

散布・調査方法：植木鉢に移植された供試植物(マツ、サツキ、ヒメコウライシバ、キクの4種類)に対して、アジェンダMCの100倍希釈液を、植木鉢の土壌面積に3L/m<sup>2</sup>の割合で、上から植物全体へ万遍なく散布しました。

処理1日後、3日後、7日後、14日後、21日後および28日後に目視により薬害程度を調査しました。乾燥後、残渣があった場合、汚れ程度を目視により5段階(5=激しい汚れ~1=なし)で評価しました。

試験結果と考察：マツ、サツキ、ヒメコウライシバ、キクの4種類に対して薬害は認められませんでした。サツキ、キクでは汚れがわずか(2レベル)に認められました。飛散してしまった場合、またはその可能性が認められる場合は、乾燥する前に散水することが汚れを落とすには有効と思われれます。

供試植物	薬害の有無						備考
	処理1日後	処理3日後	処理7日後	処理14日後	処理21日後	処理28日後	
マツ	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
サツキ	なし	なし	なし	なし	なし	なし	汚れがわずか(2レベル)に認められた。
ヒメコウライシバ	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
キク	なし	なし	なし	なし	なし	なし	汚れがわずか(2レベル)に認められた。

## 1 土壌移行性

試験方法：土性の異なる2種類の土壌カラム(内径25mm、高さ300mm)の表面に、アジェンダMC100倍希釈液を1.5mL(3L/m<sup>2</sup>相当)で添加しました。その後直ちに、蒸留水200mLを2.0mL/hrの流速で滴下しました。これは、日本における年間地下水流出量に相当します。

試験結果：下表の通り、アジェンダMCは処理土壌の表層(約5cm)に大部分が留まり、土壌移行性が非常に小さく環境への影響も少ないと考えられます。

土壌カラム	有効成分の分布(%)	
	牛久土壌	野市土壌
0-5cm	97.5	98.6
5-10cm	<1.0	<1.0
10-15cm	<1.0	<1.0
15-20cm	N.D.	N.D.
20-25cm	N.D.	N.D.
25-30cm	N.D.	N.D.

N.D.:検出限界未満

住友化学(株)実施

## 2 アジェンダMCの耐アルカリ性

アジェンダMCを下表の各pH水溶液中で、1ヶ月、60°Cの条件下で保管した結果、90~95%の残存率でした。この試験条件は、常温での3年に相当すると考えられており、アジェンダMCの高い耐アルカリ性能が確認されました。

pH	60°C、1ヶ月保管後の残存率(%) (常温で3年に相当)
7	91
10	90
12	95

住友化学(株)実施

## 有効成分とその作用性

Q アジェンダMCとは？

A 有効成分としてフェニルピラゾール系殺虫成分であるフィプロニルを含んでおり、樹脂膜で包んで20μmの微小な球状にして液中に分散させた、マイクロカプセル製剤です。シロアリが口器ですり潰すことにより効果を発現します。通常の散布施工では破壊されず、フィプロニルは膜外へは染み出ません。

Q フィプロニルは、シロアリに対してどのような作用性を持っていますか？

A シロアリの神経系に作用し、体を麻痺させて、死に至らしめます。

Q フィプロニルは、忌避性がありますか？

A 忌避性はありません。そのため、処理した場所にシロアリが侵入しようとした際に、薬剤に暴露され、高い防除効果が発揮されます。

Q フィプロニルは遅効性ということですが、効果はありますか？

A 効果の発現は遅いのですが、薬剤は体内に取り込まれていますので、暴露したシロアリは確実に致死します。非忌避性と相乗効果で高いドミノ効果を発揮し、巣の仲間へ大きなダメージを与えます。

Q ドミノ効果とは？

A ドミノ倒しの様に、薬剤が次から次へと巣の仲間へ伝播されていく効果を“ドミノ効果”と言います。Envuのシロアリ剤（アジェンダ、ハチクサン）には高いドミノ効果が確認されています。

Q アジェンダMC希釈液を土壌処理したところに直射日光が当たった場合は？

A 土壌散布された場合、薬剤は表層から5cmまでの土壌表層部にとどまりますが、日光による紫外線の影響を直接受けるのは、土壌表面の極く表層（0.1mm以内）に分布する薬剤のみです。

## 用法・用量

Q 予防時の処理方法は？

A (公社)日本しろあり対策協会の仕様書に従い、面状処理では3L/m<sup>2</sup>、帯状処理では20cm幅で長さ1m当たり1Lの処理量で散布してください。土壌処理の方法にかかわらず、水損を防止するために希釈倍率を適宜変更することができます。ただし、有効薬剤量は所定の量を散布してください。なお、施工にあたっては、(公社)日本しろあり対策協会の「防除施工標準仕様書」並びに「安全管理基準」に従ってください。

Q 駆除の際の処理方法は？

A 基本的には、シロアリの生息場所や被害箇所への注入処理、その他の部分への注入や吹き付け処理を行い、被害の大きさや場所、建物の構造などに応じて、その他の処理を行ってください。なお、駆除処理後には前述の予防土壌処理を行ってください。

## アルカリ、微生物等への安定性

Q アジェンダMCの酸・アルカリに対する安定性は？

A 本文中(10頁)にもあります通り、マイクロカプセル製剤ですのでpHへの耐性は高く、強アルカリ性にも安定です。

Q 有効成分の環境中での安定性は？

A 土壌の微生物分解・加水分解については、マイクロカプセルに包まれているため安定です。

## 作業員に対する安全性

Q 作業時の保護具は？

A シロアリ防除施工における安全管理に基づく保護具(長袖の作業着、保護マスク、作業帽、保護メガネ、保護靴、ゴム手袋など)を着用してください。

Q アジェンダMCの臭いは？

A アジェンダMCの原液には若干の樹脂臭はありますが、100倍希釈液は極めて低臭です。

## 中毒

Q アジェンダMCを使用して、中毒症状になった場合、どう対処すればよいか？

A 直ちに医師の診断を受け、フェニルピラゾール系殺虫成分(フィプロニル)を有効成分としたマイクロカプセル製剤を使用したことを教えてください。使用薬剤が複数の場合や、過去に使用した薬剤についてもできるだけ詳しく説明してください。必要に応じて中毒110(つくば 029-852-9999、大阪 072-727-2499)へ連絡してください。

## 作業性

Q アジェンダMCの分散性は？

A 良好ですが、攪拌は使用の都度十分に行ってください。

Q アジェンダMCは、やや粘稠性があるようだが攪拌は必要ですか？

A ポンプの余水で充分攪拌できますので、予めポンプを始動させて攪拌してください。また沈澱物の再分散性も良好です。

Q アジェンダMCを計量する際、計量容器にへばりつく性質はあるのか？

A 計量容器の内壁にへばりつくことは少なく、容器の洗浄が容易ですが、容器内の液が乾く前に洗ってください。

Q アジェンダMCが保存中に凍結した場合の解凍方法は？

A -5℃以下では凍結する場合があります。その場合、室温で解凍するか、または、容器をポリ袋などに入れて、60℃程度の湯につけ、完全に解凍してからよく振って使用してください。

## 建材、プラスチック、金属類への影響

Q 壁などに散布液が流れ、太陽光があたった場合、変色しますか？

A 黄変、褐変など変色は起こりにくくなっておりますが、すみやかに拭き取るか、または水洗いしてください。

Q 樹脂類・ゴム類・皮革類・自家用車の塗膜面などに与える影響は？

A 薬剤がかからないよう予め養生をしてください。もし、かかったとしても水ベースであるため、影響は少ないと考えられますが、すみやかに拭き取るか、又は水洗いしてください。

Q コンクリート・モルタル・白木に散布した場合のシミの発生は？

A 水での希釈倍率が高いのでほとんど問題になりませんが、すみやかに拭き取るか、または水洗いしてください。

Q ステンレスタンクに対する影響は？

A これまでの知見から影響はないと考えられます。

Q 薬剤ホースを硬化させるような影響は？

A 影響は少ないものと考えられますが、耐薬品性のホースを使用してください。

Q アルミサッシに付着した場合は？

A まず、拭き取ってください。尚、最近のアルミサッシはほとんど塗装されているので、影響が少ないものと考えられますが、必要に応じて水洗いしてください。

## 木部への浸透

Q アジェンダMCの木部への浸透性は？

A アジェンダMCは平均粒子径が大きく(約20μm)、木部への浸透性は期待できません。シロアリによる被害箇所への注入は可能です。

## 農産物対策

Q アジェンダMCが誤って野菜・果実・花等にかかってしまった場合は？

A マイクロカプセル製剤は根から吸収されませんし、有効成分であるフィプロニルも植物表面から浸透しにくい薬剤ですが、誤ってかかってしまった場合には、基本的に食べたり、料理したりしないで廃棄処分してください。

## 廃棄方法

Q アジェンダMC製剤及び空容器を廃棄する場合、どのような方法を行えばよいですか？

A 製剤の廃棄が必要な場合は、SDSを添付して、産業廃棄物業者へ依頼してください。また、空容器は、内容物が残らないようよく洗った後、同様に廃棄依頼してください。

## その他

Q 施主がアレルギー体質の場合、施工を行っても問題ないか？

A 全ての薬剤にいえることですが、基本的には施工しないでください。

Q アジェンダMCが付着した作業衣の洗濯にはどんな洗剤が適しているか？

A 市販の洗剤をお使いください。



## アジェンダMCの取扱上の注意事項

### 使用上の注意

[使用に際しての注意事項]

- 使用前に必ずラベルをよく読み、十分理解した上で使用してください。
- 施工箇所(床下)と居住空間との間に空気の交換がある構造の建物の場合(空気循環式等)、処理は行わないようにしてください。
- 使用する処理方法、処理薬剤については、日本しろあり対策協会の安全管理基準に従い、事前に居住者への説明を行い、了承を得てください。
- 施工現場の近隣にも事前に、その旨を通知し、十分な配慮を行ってください。
- 定められた用法及び使用量を厳守し使用してください。間違った使い方をすると、効力不足や健康を害することがあります。
- 環境を汚染しないように乱用を避けてください。池、井戸、地下水等を汚染するおそれのある場所、蜜蜂、蚕(桑)、水生生物等に被害を及ぼすおそれのある場所では使用しないでください。
- 希釈する場合は薬剤がはね返らないようにして、均一によく攪拌し、手や指で直接かき混ぜるようなことはしないでください。希釈用の容器は専用のものとし、他とは兼用しないでください。
- 使用に際しては、必要量だけを取って調整し、その都度使い切ってください。
- 本剤を他の薬剤と混合したり、加熱したりしないでください。
- 薬剤によって、アレルギー症状やカブレ等を起こしやすい特異体質の人、また健康状態の思わしくない人、妊娠中の人は、薬剤の処理作業には従事しないでください。
- 居住者や近隣の住民に、病人、特異体質者(アレルギーや化学物質に過敏な体質等)、妊産婦、乳幼児等が居る場合には、薬剤の影響が出ないようあらかじめ関係者やかかりつけの医師と相談してもらうなどして、十分に配慮してください。
- 散布が終了するまでの間は、居住者が薬剤にばく露されないよう細心の注意を払い、念のため薬剤の影響のない部屋や階上の部屋等で過ごしてもらうようにしてください。
- 食品、食器、飼料、玩具、寝具、衣類、愛玩動物、鑑賞魚、植物、貴重品、美術品、楽器、電気製品等はあらかじめ他へ移すか、あるいは格納し、薬剤がかからないようにしてください。
- 散布中は、居住者が床下進入口のある部屋に立ち入らないための措置を取ってください。
- 散布中の薬剤の室内への飛散をできるだけ防ぐための措置を取ってください(例:薬剤による室内汚染を防ぐための養生、床下進入口をビニールシートや床板等で覆う措置等)。
- 散布中は、薬剤が他の部屋に飛散しないように、床下進入口のある部屋の開口部(ドア、引き戸、窓等)は閉めるか、ビニールシート等で必要な養生をしてください。また、床下からの室内への空気流入を防ぐために換気扇は使用しないでください。
- 散布終了後は最低1時間、十分に換気を行い、その間居住者は床下進入口のある部屋へは入らないようにしてください。
- 植木や植栽などの植物にかかると枯れる等の薬害が出るおそれがあるので、屋外での使用や風によるドリフト(飛散)等により、薬剤が植物にかからないよう、あらかじめ養生を行うか、移動させるなど、十分に注意して使用してください。



## アジェンダMCの取扱上の注意事項

### 使用中又は使用後の注意事項

- 本剤の原液は石材類、木材類、金属類、配線類、ガス管、水道管(硬質塩化ビニル)、畳、床材(塩化ビニル)、断熱材等に付着した場合は着色、変色又は変形する場合があります。また本剤の希釈液は塩化ビニル等に付着した場合には着色することもありますので、覆う等の措置をし、薬剤がかからないようにしてください。
- 使用に際しては、適切な保護具を必ず着用し、身体の露出部を少なくして薬剤を浴びないよう、また吸入しないようにしてください。推奨の保護具性能は以下の通りです。



- 防護マスク(JIS T8152 DS2:集塵率95%以上の規格又は同等以上)
- ゴーグル型メガネ(JIS T8147:ゴーグル型又は同等以上)
- 不浸透性手袋(JIS T8116:防水機能を有する不浸透性又は同等以上)
- 長袖の不浸透性防除衣(防水機能を持ったもの)
- 保護具および使用する機械器具類は、あらかじめよく点検整備しておいてください。
- 散布機の圧力は、薬剤が不必要に広がらないように注意して調整してください。また、風の強い場所での使用は避けてください。
- 床下等、風通しの悪い空間で作業する場合には、ばく露に注意して、長時間の連続した作業は避けてください。
- 薬剤の調製、散布中は喫煙、飲食をしないでください。また、使用中または使用後にトイレに行くときは、手や顔をよく洗ってから行ってください。
- 薬剤が皮膚についた時は、直ちに石けんと水でよく洗ってください。万一、薬剤が眼、口などに入った場合には直ちに水でよく洗い流してください。作業中に大量の薬剤を浴びた場合は、直ちに汚染した衣類を脱ぎ、シャワーを浴びる等して、体に付着した薬剤を落とし、清潔な衣類に着替えてください。また、必要に応じて医師の診察を受けてください。
- 作業終了後は、直ちに石けんと水で手や顔をよく洗い、うがいをしてください。また、衣類は清潔なものに着替えてください。
- 一日の作業終了後は、必ず入浴またはシャワーで身体をきれいに洗ってください。特に毛髪・顔・手・足等の露出部分は入念に洗ってください。
- 万一、誤って薬剤を飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の診察を受けてください。また、薬剤の使用により、身体に異常を感じた場合等には直ちに使用を中止し、清浄な空気のある場所で安静にして、速やかに医師の診察を受けてください。医師の診察を受ける際には、使用薬剤名(アジェンダMC)、有効成分名(フィプロニル)、症状、被曝状況等について出来るだけ詳細に医師へ教えてください。また、吐物が気管内に入らないように細心の注意を払うようにしてください。動物実験ではフェノバルビタール製剤の投与が有効であると報告されています。
- 作業時の衣服は、他の衣服と区別して洗濯し、保護具も洗剤でよく洗ってください。希釈や薬剤処理に用いた機械器具類もよく洗ってください。
- 使用済みの空容器は水又は石けん水等でよく洗い、小児が触れないようにするとともに、他に転用しないでください。汚染した器物や洗浄液は、作業現場から持ち帰り、処分に当たっては、自治体の条例や指導に従って処分してください。決して、河川、湖沼、下水道等の水系や地下水を汚染するおそれのある場所には捨てないでください。
- 使用中に、周辺に被害を及ぼす可能性のある事故が発生した時は、直ちに関係機関に通報してください。
- 文化財虫菌害防除薬剤として使用する場合は、上記の「使用上の注意」に加えて、以下の点に十分注意してください。
  - 公益財団法人文化財菌害研究所認定申請時の指定濃度で使用してください(水で100倍希釈)。
  - 文化財に薬害が生じないよう十分留意して、文化財展示保存施設等の土壌処理として使用してください。



### 警告

<危険有害性情報>

H371 臓器(神経系)の障害のおそれ

H373 長期にわたる、または反復ばく露により臓器(神経系)の障害のおそれ

H410 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性



# アジェンダMCの取扱上の注意事項

## 保管上の注意事項

- 使用後に残った薬剤原液は、ラベル表示のある元の容器に密栓し、食品、食器、飼料等他のものと区別して保管してください。また、一度開封したものはできる限り早く使い切ってください。
- 本剤は小児の手の届かない鍵のかかる直射日光や雨水が当たらない乾燥した涼しい場所に保管してください。
- -5℃以下で凍結することがあるので、保管場所に注意してください。製剤が万一凍結した場合、20℃程度の温度下に放置し、自然解凍させた後、製剤容器をよく振って使用してください。解凍を急ぐ場合は、容器をポリ袋に入れて60℃程度の温水につけ、半日以上放置し、完全に解凍させた後、製剤容器をよく振って使用してください。なお、希釈の際にはお湯は使用しないでください。

## その他の注意事項

- 使用に際して、不明な点、事故等が生じた場合は製品情報お問い合わせ先メールアドレス (japan@envu.com)へご連絡ください。
- 購入した薬剤は速やかにお使いください。
- 廃棄する場合、内容物、容器は都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託してください。
- 火災時は、適切な保護具を着用し消火剤等で消火に努めてください。
- 移送取扱いは、ていねいに行ってください。
- 漏洩等の事故が発生した場合には、保健所、消防署又は警察署に直ちに届け出るとともに、必要な応急の措置を講じてください。また、盗難・紛失事故が発生した場合には、直ちに警察署に届け出てください。薬剤が漏洩した場合には次のように処置してください。
  - ① 保護具を着用し、吸収性の媒体、例えば砂、軽石、ポロ布、オガクズ等に吸着させ、広がりを阻止して回収してください。
  - ② 漏洩した薬剤が井戸、池、河川などの水系に流入した場合は、直ちに警察署・保健所等関係機関に報告してください。
- 体調の悪いとき、飲酒後等は取り扱い及び作業をしないでください。
- 本記載事項を含め、薬剤を安全に使用するために、(公社)日本しろあり対策協会「しろあり防除施工における安全管理基準」に従い、作業を行ってください。